こどもが まんなか
# いわてのWAっこ

いわて幼児教育センター通信
**No.4　令和６年10月10日発行**
発行・編集
岩手県教育委員会事務局学校教育室
（いわて幼児教育センター）
本通信は岩手県HPからダウンロードできます
https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html

## きらきら☆いわてっこ

### 友だちとの関わりの中で相手の気持ちに気付いていく

**好きな遊びの中でやりとりしながら（3歳児）**
「ここは行き止まり」「うん」「まわって」「まわって」「ブーン」「ブーン」自分は楽しい、友だちも楽しい。「追い越すよ」「だめ、ついてきて」「え―」「じゃあ、いいよ」一緒に遊ぶ中で、自分以外の相手の気持ちに気付くことができるようになっていきます。

**トラブルの話し合いをとおして（5歳児）**
みんなで遊んでいる中で、トラブルが発生しました。みんなが自由に思い思いのことを発言しだし、なかなか解決策が見いだせません。そのうちに怒り出す子も出てきました。
そんな中で「じゃあさ、一人ずつなんか言おうよ」「そうだ、みんなで言うとわけわかんないよ」と提案する子も出てきました。『みんなで遊ぶと楽しい』と『大好きな友だちとつながりたい』に支えられて、もう一度楽しく遊ぶための知恵を出し合います。自他の思いの違いに気付く大切な体験です。

**見えない誰かに思いをはせて（5歳児）**
絵本コーナーで、５歳児数人が絵本の整理をしてくれていました。「だって好きな絵本がすぐに見つかった方がいいでしょ」と一生懸命です。
共感的に相手の気持ちが推し量れるようになる相手意識が、他者理解につながっていきます。

**〈幼児期の終わりまでに育ってほしい姿〉**

**道徳性・規範意識の芽生え**

**友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したり、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。**

～子どもは、他の子どもと様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことがあることを分かり、考えながら行動するようになっていく。卒園を迎える年度の後半には、いざこざなどうまくいかないことを乗り越える体験を重ねることを通して人間関係が深まり、友達や周囲の人の気持ちに触れて、相手の気持ちに共感したり、相手の視点から自分の行動を振り返ったりして、考えながら行動する姿が見られるようになる。また、友達と様々な体験を重ねることを通して人間関係が深まる中で、きまりを守る必要性が分かり、友達と一緒に心地よく生活したり、より遊びを楽しくしたりするために、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようにもなる。～

保育所保育指針解説 p77　幼稚園教育要領 P56　幼保連携型認定こども園教育保育要領 P52

保育者は子どもが自分の言動を振り返り納得して折り合いをつけられるように、問いかけたり共に考えたりし、子どもが自分たちで思いを伝え合おうとする姿を十分に認め支えていく援助も必要です。子ども同士のぶつかり合いや楽しく遊びたいのにうまくいかないといった思いが生じた場面を捉えて適切な援助を行うことが、子どもの道徳性・規範意識を育んでいきます。

# コラム☆かんきょう

訪問支援の場面から

## 子どもが夢中になって遊び、よく考える環境　～1歳児編～

### 子どもの発達について知りましょう

写真①

だんだんと、緩やかな斜面や階段の昇り降りなどに挑戦したり、ちょっとした段差から飛び降りたりすることも楽しむようになります。**(写真①)**

大人に視線を合わせ、指差しで自分の思いを伝えようとし、さらにことばも発するようになります。また、積み木を電車に見立てるなどの見立て遊びが見られるようになります。
そこにはないものを別の何かに置き換えること（象徴機能）は、ことばの獲得にとって大事な力です。“お散歩”に行くと分かると、靴や帽子を持ってくるようになりますね。
これも象徴機能の一つです。**(写真②)**
その繰り返しの中で、自分でしようとする意欲も育ちます。

写真②

自分で下着や靴下を履こうとする姿が見られ、大人が手伝おうとすると怒ったり、脱いでやり直したりするほど、「自分で！」という思い（自我）が出てきます。保育者は見守りつつ、できないところはさりげなく援助しましょう。**(写真③)**
いやいやも自我の芽生えです。大事にしましょう。

写真③

写真④

「おもしろいね」「不思議だね」と保育者が共感しながら面白がったり、驚いたりすることで、子どもの不思議発見は更に楽しくなります。
ただし、夢中になっている時や一生懸命な時には温かく見守ることも大切です。**(写真④)**
困ったり、共感してほしかったりする時には合図を送ってくるはず。そんな時にタイミングよくことばをかけてあげましょう。

### こんな環境を創りましょう

自我が発達するため、物などの所有意識も強くなります。

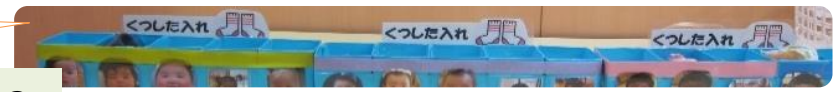
写真⑤

玩具などは多めに用意し、一人ひとりが満足して遊べるようにしましょう。**(写真⑤)**
また、ルールや約束などを教えることを優先せず、個々の子どもの気持ちを十分に受け止める声かけが必要です。自分の思いを受け止めてもらう経験が相手意識の芽生えにつながっていきます。

『自分で』がかなう環境構成を作りましょう。

自分の物やほしい物がわかり、出しやすく、片付けやすくなるよう工夫してみましょう。**(写真⑥)**
子どもの姿から必要な環境が見えてきます。

一人ひとりの写真入




写真⑥

**令和６年度岩手県幼児教育研究協議会より**

令和６年８月９日（金）に県立生涯学習推進センターセミナーホールにて県内各地から 135 名の参加で実施しました。
講師に京都教育大学の古賀松香教授をお迎えして「架け橋期を見通した保育におけるカリキュラム・マネジメント」と題して御講演をいただきました。下のクイズは講演の中で古賀先生が出題したものです。

【クイズ】

□架け橋期とは５歳児の後半から小学１年生１学期のことまでをいう　Yes ／ No　⇨No

□幼保小連携・接続は、入学してくるすべての子どもの所属先と行うものである　Yes ／ No　⇨No

【解説】

□架け橋期とは、就学前の５歳児の初めから小学１年生の終わりまでの２年間です。
□すべての所属先ではなく小学校区を基本とします。
小学校とその校区（学区）の園で交流の一歩を踏み出してみましょう。

県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちの**ウェルビーイング**(幸福)をめざしていきます。